

# 『演劇映像学2013』 刊行にあたって

早稲田大学坪内博士記念演劇博物館  
「卓越した大学院拠点形成支援補助金」

実施責任者 岡室美奈子

このたび「卓越した大学院拠点形成支援補助金」により、『演劇映像学2013』を刊行するはこびとなりました。

本補助金は、グローバルCOE事業で特に高評価を受けた拠点等に文部科学省より交付される若手研究者育成のための補助金です。演劇博物館では2012年度より交付を受け、若手研究者の支援事業を展開してきました。2013年度は、昨年度に引き続き、演劇、映像、舞踊を研究対象とする早稲田大学文学研究科博士後期課程在籍者からRA（リサーチ・アシスタント）を公募しました。その結果、29名の応募があり、厳正なる審査の結果15名を採用しました。採用されたRAには、7月～1月（8月を除く）の6ヶ月にわたり、研究活動に専念できる環境を用意しました。

昨年度、本補助金事業の一環として、グローバルCOE事業「演劇・映像の国際的教育研究拠点」の紀要『演劇映像学2007』～『演劇映像学2011』を引き継ぐ形で、『演劇映像学2012』を刊行しました。本紀要は、その2013年度版となります。本事業では、雇用したRA全員に研究成果を論文として提出することを義務づけており、2013年度もRA全員が提出期限に一日も遅れることなく論文を提出しました。提出された論文については紀要編集委員会より学内委員に査読を依頼し、原則として指導教員以外の匿名審査員2名が査読を行いました。その査読結果を編集委員会で厳正に検討し、うち数本は修正の上再査読を行い、最終的に13本の論文が本紀要に掲載されることになりました。本紀要はCD-ROM版も作成するほか、掲載論文のリポジトリ化もはかります。本紀要に掲載がかなわなかった論文も、時間をかけて修正の上、次年度の演劇博物館紀要『演劇研究』に投稿するなどして、RA全員が義務を全うしてくれることと確信しています。

昨年度からご多忙なかたで論文集編集に携わってくださった武田潔文学術院教授を筆頭とする編集委員各位、ならびに短期間の内に厳正なる査読を賜った査読委員各位に、この場を借りて深謝申し上げます。

なお、本事業ではこのほかにも、RA向けの講演会の開催、本事業専従の客員次席研究員による論文執筆指導やサポートなど、さまざまなかたちで研究支援を

行ったことを付言しておきます。文部科学省によれば、残念ながら本補助金は今年度限りで終了するそうですが、本事業で支援した若手研究者たちが今後学界で中心的存在となって活躍することを願ってやみません。また、演劇博物館では今後もなんらかのかたちで、演劇や映像、舞踊を研究対象とする若手研究者の育成に努めてまいりますので、みなさまのご協力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。